

6年 やまなし
イーハトーブの夢



3年 三年とうげ



令和4年度
第39回宮崎県小学校国語教育研究大会
日向・東臼杵地区大会

令和4年度 日向市教科等研究会小学校国語科部会

目 次

あいさつ

I	研究の構想	
1	研究主題	… 1
2	主題設定の理由	… 1
3	研究のねらい	… 2
4	研究仮説	… 2
5	研究内容	… 2
6	研究の全体構想図	… 3
II	理論	
1	研究主題・副題についての基本的な考え方	… 4～7
2	研究内容	… 7～11
	参考文献等	… 11
	学習指導案様式	… 12～14
III	実践	
1	第6学年2組指導案	… 15～18
	授業記録	… 18～21
	成果と課題	… 22
2	第3学年3組指導案	… 23～28
	授業記録	… 29～31
	成果と課題	… 32
IV	研究の成果と課題	… 33

おわりに

あいさつ

宮崎県小学校国語教育研究会会長 沼田重明

第39回宮崎県小学校国語教育研究大会日向・東臼杵大会誌の発行にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

令和2年の初めから新型コロナウイルス感染症拡大により、教育の現場においても未知のウイルスとの闘いが始まりました。学びの場を守るために「新しい生活様式」を踏まえた教育活動を展開しようと、教育の現場をはじめ教育関係者の努力は3年を経過した現在も継続中です。

一方、この新型コロナウイルス感染症への対策を契機に、これまでの教育活動を見直し工夫改善していくとする動きも加速しました。特に、GIGAスクール構想の前倒しも後押しとなり、授業や会議でのICTの積極的な活用が急速に進められ、学校行事やPTA活動も活動内容を精選したり工夫改善したりする取組が進められています。

そのような中、来年度の九州小学校国語教育研究大会は宮崎大会となります。国語は人間としての知的な活動や文化的な活動の中核であり、一人一人の自己形成や社会生活の向上、文化の創造と継承などに欠かせません。本研究会は、その国語教育に大きく貢献してきた伝統があり、本研究会の先生方は、「言葉による見方・考え方」を視点とした「深い学び」への国語科授業改善に日々取り組まれています。伝統ある本研究会の灯を消さないようコロナ禍での経験や知見を活かし持続可能な研究会を目指していく所存でございます。

残念ながら今回の日向・東臼杵大会は、感染症拡大の影響を受け誌上での発表となりましたが、日向・東臼杵地区の先生方が物語文の授業作りに取り組まれ、その成果をこの大会誌にしっかりと刻んでくださいました。先生方の熱心な取組に感謝申し上げ、その取組を来年度の宮崎大会につなげていきたいと思えます。

結びに、先生方のますますのご健勝とご活躍を心から祈念いたしますとともに、ご支援ご協力をいただきました教育委員会をはじめ関係者の皆様へ心からお礼を申し上げ、ごあいさつといたします。

あいさつ

第39回宮崎県小学校国語教育研究大会

日向・東臼杵地区大会実行委員長 河野 勉

ここに、第39回宮崎県小学校国語教育研究大会日向・東臼杵地区の研究の成果をまとめることができたことを嬉しく思いますとともに、ご協力ご支援いただいた皆様に、心より厚くお礼申し上げます。

本来であれば、研究大会を開催し、県内の先生方に研究の成果を見ていただくことで本県の国語科教育の発展に寄与すべきところですが、新型コロナウイルス感染症第7波のため研究大会開催を断念し、紙上での発表とさせていただきます。

39回を数えるこれまでの研究大会は、大きく変容する時代の要請を受けながら、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成を目指し、隔年開催されてきました。この間、その推進に携わってこられた各地区の先生方、そして宮崎県小学校国語教育研究会事務局の先生方の多大なるご尽力があったものと拝察いたします。改めまして、関係各位のお取組に敬意を表するものであります。

ここ日向・東臼杵地区におきましても令和2年度より研究に着手いたしましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延と時期が重なり、国語主任会の開催ができなくなる中、研究班を中心とした理論研究を進めて参りました。本年度からようやく主任会を開催できるようになり、研究会・研究授業を実施し、ここに日向・東臼杵地区の研究をまとめさせていただきました。

本地区では児童の実態を分析した上で、研究主題を「主体的・対話的で深い学びを通して思考力・判断力・表現力を育む国語科学習～「読むこと」における主体性を意識した物語文の授業づくりを通して～」と設定し、児童が主体的・対話的に学ぼうとする授業の創造と展開を探ってきたところです。特に「目的意識」や「必要性」を意識できるような課題設定の工夫、自分の考えを形成することができるような発問の工夫、主体的・対話的に学び合うための展開や場づくりの工夫について研究を進めてきました。

研究成果については、まだまだ十分とは言えませんが、今回の取組により確かな児童の変容が見られたことは、我々にとって大きな自信となり、次への意欲となりました。この研究の取組が少しでも本県国語科教育の推進につながれば幸いです。今回の研究成果を糧とし、これからも引き続き研鑽を積み真摯に国語科教育の指導力向上に取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、本研究を推進するにあたりご指導とご支援をたまわりました宮崎県教育委員会並びに日向市教育委員会、関係各位に対しまして衷心より深く感謝申し上げます、ごあいさついたします。

I 研究の構想

1 研究主題

主体的・対話的で深い学びを通して思考力・判断力・表現力を育む国語科学習
～「読むこと」における主体性を意識した物語文の授業作りを通して～

2 主題設定の理由

社会的変化が急速に進展し、今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会創造や雇用環境が急速に変化し、予測が困難な厳しい挑戦の時代を迎えると予想される。また、地震や大雨などの自然災害、新型コロナウイルスの蔓延、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化などこれまでに経験したことのない事態が世界で起きている。

このような時代にあって、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と共働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようになることが求められている。

学習指導要領でも、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

国語科においては、「何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能）」、「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」の3つの柱に従い、内容が整理されている。また、このような資質・能力を育成するためには、「言葉による見方・考え方」が重要であることも示されている。

日向市教科等研究会国語部会では、令和2年度から「読むこと」に焦点を当てて、研究を進めてきた。この「読むこと」は、学習指導要領では、「思考力・判断力・表現力等」のC領域として位置づけられていて、「学習過程の明確化、『考えの形成』の重視」の観点から、「(1) 指導事項 (2) 言語活動例」で構成されている。

昨年度までの成果としては、児童の物語文に関する意欲が高まってきたこと、国語の用語について少しずつ理解してきたことがあげられる。また、課題としては、自分の考えを分かりやすく伝え、友達の考えと比べて話すなど学び合いが深まるような話し合いを行っていくことや自分の意見、それを支える理由を明確に伝えることが十分ではないことがあげられる。

また、本市における児童の「全国学力調査」（令和2年、3年）「みやざき学習状況調査」（令和2

年、3年)の国語科の結果でも同じことが言える。

- 「全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙」において、解答時間が足りなかったと回答した児童の割合が全国に比べて高い傾向にあった。
- 登場人物の行動や様子について、描写を基に捉えることが難しい。
- 情報と情報の関係について理解し、自分の考えの理由をまとめて書く力が弱い。
- 記述条件に沿った文章を書く問題や自分の意見・それを支える理由を明確に書く問題に対して無回答が多い。
- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる力が弱い。
- 主体的に学習に取り組む態度について、全国・県とも低い傾向であった。

これらの結果から、問題に対し無回答の児童がいること、描写を基に考えまとめる力や意見を共有し考えを深め広げる力に課題があり、それらを中心に指導していく必要があると考えた。

そこで、今年度も引き続き「読むこと」に重点を置き、主体的・対話的で深い学びを通して自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決していこうとする児童の育成を目指し、「児童が主体的に学ぼうとする授業」「児童が対話的に学び合う場面」の充実を図る授業改善を行うことで、新時代に向けた国語科授業の在り方を提案したい。

3 研究のねらい

- 国語科「読むこと」において、主体的・対話的な深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を育むために、「児童が主体的に学ぼうとする授業」「児童が対話的に学び合う場面」の在り方を明らかにする。

4 研究仮説

- 物語文の単元において、児童が主体的に学ぼうとする授業の展開、児童が対話的に学び合う場면을工夫することで、児童が主体的に読み深めることができるであろう。

5 研究内容

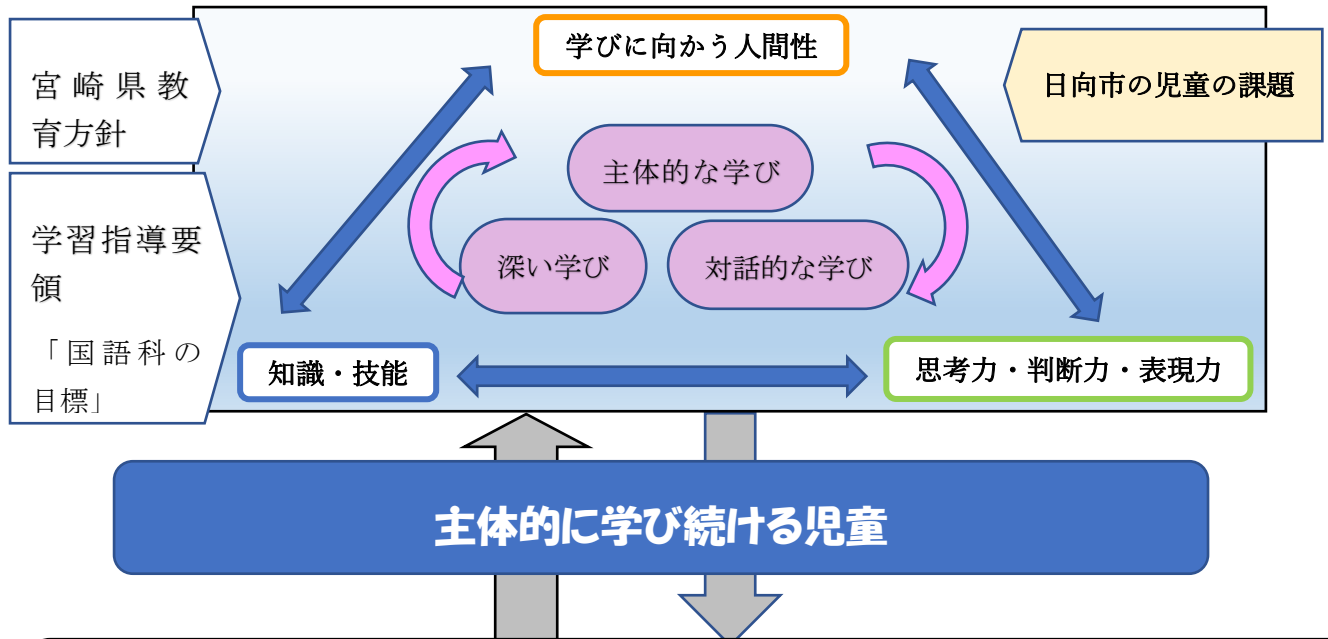
(1) 児童が主体的に学ぼうとする授業

- ① 児童が目的意識をもって読むことができる課題の設定
- ② 児童が自分の考えを形成することができる発問の工夫

(2) 児童が対話的に学び合う場面

- ① 自分の考えを表現する場の設定
- ② 児童が目的や必要性を意識しながら、学び合うための工夫

6 研究の全体構想図



【研究主題】

主体的・対話的で深い学びを通して思考力・判断力・表現力を育む国語科学習
～「読むこと」における主体性を意識した物語文の授業作りを通して～

【研究のねらい】

- 国語科「読むこと」において、主体的・対話的な深い学びを通して、思考力・判断力・表現力を育むために、「児童が主体的に学ぼうとする授業」「児童が対話的に学び合う場面」の在り方を明らかにする。

【研究仮説】

- 物語文の単元において、児童が主体的に学ぼうとする授業の展開、児童が対話的に学び合う場面を工夫することで、児童が主体的に読み深めることができるであろう。

【研究内容】

- (1) 児童が主体的に学ぼうとする授業
 - ・ 児童が目的意識をもって読むことができる課題の設定
 - ・ 児童が自分の考えを形成することができる発問の工夫
- (2) 児童自身が対話的に学び合う場面
 - ・ 自分の考えを表現する場の設定
 - ・ 児童が目的や必要性を意識しながら、学び合うための工夫

Ⅱ 理論

1 研究主題・副題についての基本的な考え方

学習指導要領では、「育成すべき資質・能力」として次の3つの柱を掲げている。

- (1) 生きて働く「知識・技能」の習得
- (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- (3) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

そして、これらの育ちを実現するために「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が行われることが必要だとしている。

本研究では、児童の「主体的な学び」を引き出すために「児童が主体的に学ぼうとする授業」①児童が目的意識をもって読むことができる課題の設定 ②児童が自分の考えを形成することができる発問の工夫についての研究をすることが重要であると考え。また、「対話的に学ぶ」ためには、「児童自身が主体的に学び合う場面」①自分の考えを表現する場の設定 ②児童が目的や必要性を意識しながら、学び合うための工夫についての研究をすることが重要であると考え。

そこから「深い学び」へつながるよう、「読む」必要感をもたせ、児童一人一人が、自分自身の課題として捉え、自分の思いや考えを生かすことができる単元学習を通して、主体的に学び続ける児童の育成を目指していく。

そこで、本研究を進めるにあたり、研究主題に関する言葉を次のように定義付ける。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」

国語科における主体的・対話的で深い学びについては、「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」において、次のように示されている。

1 指導計画作成上の配慮事項

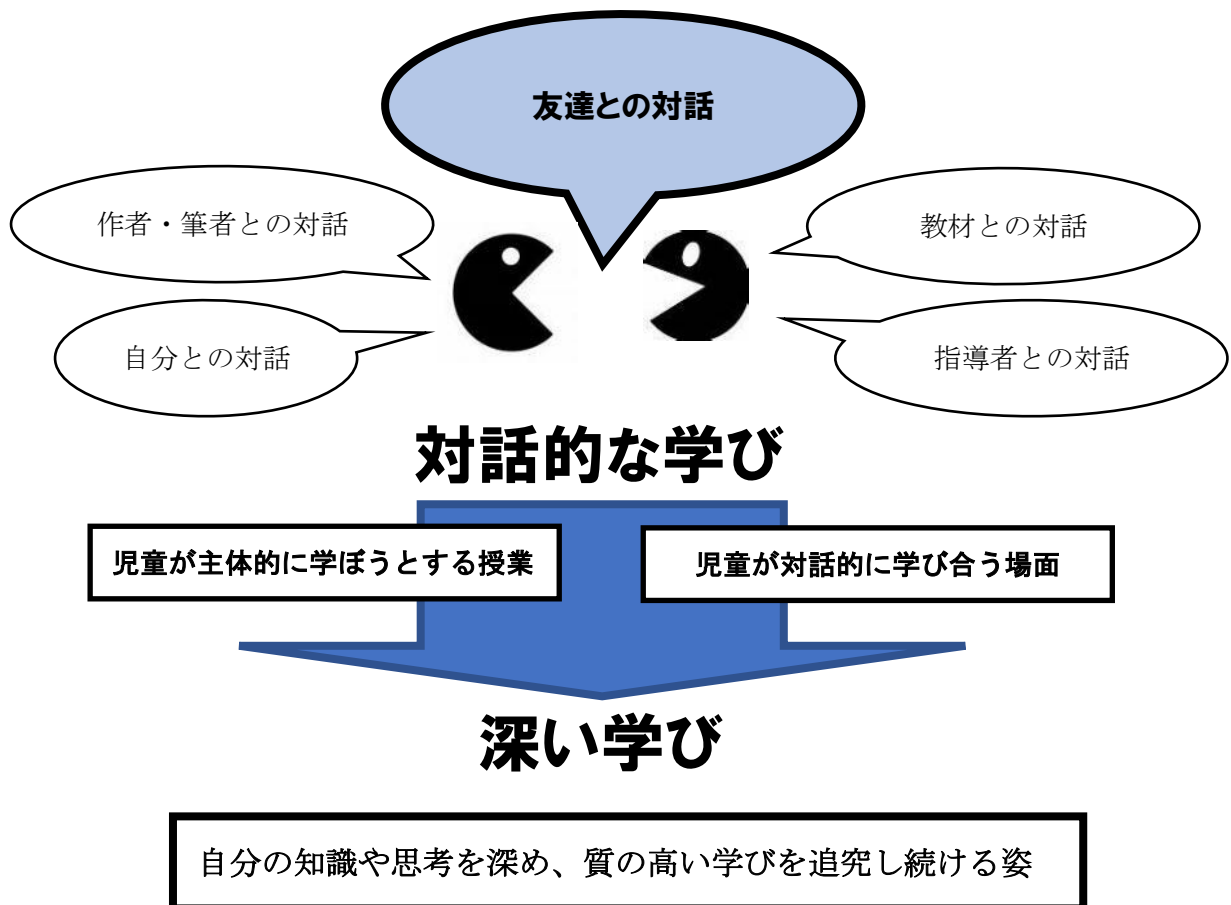
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する配慮事項

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

(2) 本研究における「主体的・対話的で深い学び」とは

児童が教材に対して課題を捉え、主体的に関わり、「考える」必要性をもって課題解決に向かう過程での論理的な思考活動や、他者との対話的な活動により、自分の知識や思考を深め、質の高い学びを追求し続ける姿。



(3) 「思考力・判断力・表現力等」

「思考力・判断力・表現力等」に関する目標には、考える力や感じたり想像したりする力を養うこと、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思いや考えをもつことができるようにすることを系統的に示している。

各学年の目標「思考力・判断力・表現力等」(小学校学習指導要領解説 国語より抜粋)

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	筋道を立てて考える力や豊かさに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	筋道を立てて考える力や豊かさに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。

(4) 本研究における「思考力・判断力・表現力等」を育む国語科学習とは

児童が、問題を解決する場面で主体的・対話的な活動を通して思考・判断していくことで、互い

の知識や理解だけでなく、意見を述べたり聞き取ったりする技能を交換し合い、その結果、対話による学習の技能が高まり、自己の理解を深めることができる国語科学習のこと。この繰り返しにより、思考力・判断力・表現力が身に付いていくと考える。

これらのことから、「読むこと」の指導は、具体的な目的、具体的な相手、具体的な場面、具体的な方法を意識した学習活動や学習展開が必要である。また活動中は、「言葉による見方・考え方」を意識して授業を行う必要もある。この「どのように学ぶか」を重視し、「記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動の充実を図る」ことが、主体的・対話的で深い学びを進めることになり、児童が未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成につながるのではないかと考える。

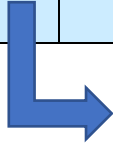
(5) 「読むこと」における「深い学び」

文部科学省が示した「読むこと」の学びは「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」の4つの学習活動を柱として進める。なお、ここに示す学習過程は指導の順序性を示すものではない。本研究では、文章を読んで感じたことや考えたことを「共有」し、他者との考え方や感じ方の違いに気付く等、自らの考えを広げる活動に重点を置くことで、「読むこと」における「深い学び」の実現に努めたい。

(6) 読むこと「文学的文章」(小学校学習指導要領解説 国語より抜粋)

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
構造と内容の把握	○ <u>場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体</u> を捉えること。	○ <u>登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に</u> 捉えること。	○ <u>登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に</u> 捉えること。
	<p>物語のあらすじや、大まかな流れを捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○設定・・・いつ(時)、どこで(場)、地の文、会話文 ○人物・・・中心人物、対人物、登場人物、語り手(一人称視点、三人称視点) ○場面・・・「時」「場所」「変容」 		
精査・解釈	○ 場面の様子に着目して、 <u>登場人物の行動を具体的に想像</u> すること。	○ <u>登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像</u> すること。	○ <u>人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたり</u> すること。
	<p>子どもの問題意識に応じた詳細な読み (課題解決のために、叙述を精査し、自分の読み(解釈)を作り出す)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中心人物がしたこと ○「場」を図や絵で表す ○クライマックス(変容、山場) ○繰り返し何度も出てくる言葉 ○主題 ○人物関係図 		

考 え の 形 成	○ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつこと。	○ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	○ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>想像的思考を働かせ、自分なりの思考を表現する。</p> <p>感想（書く・伝える）</p> </div>		
共 有	○ 文章を読んで感じたこと <u>や</u> わかったことを共有すること。	○ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、 <u>一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付くこと</u> 。	○ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、 <u>自分の考えを広げること</u> 。

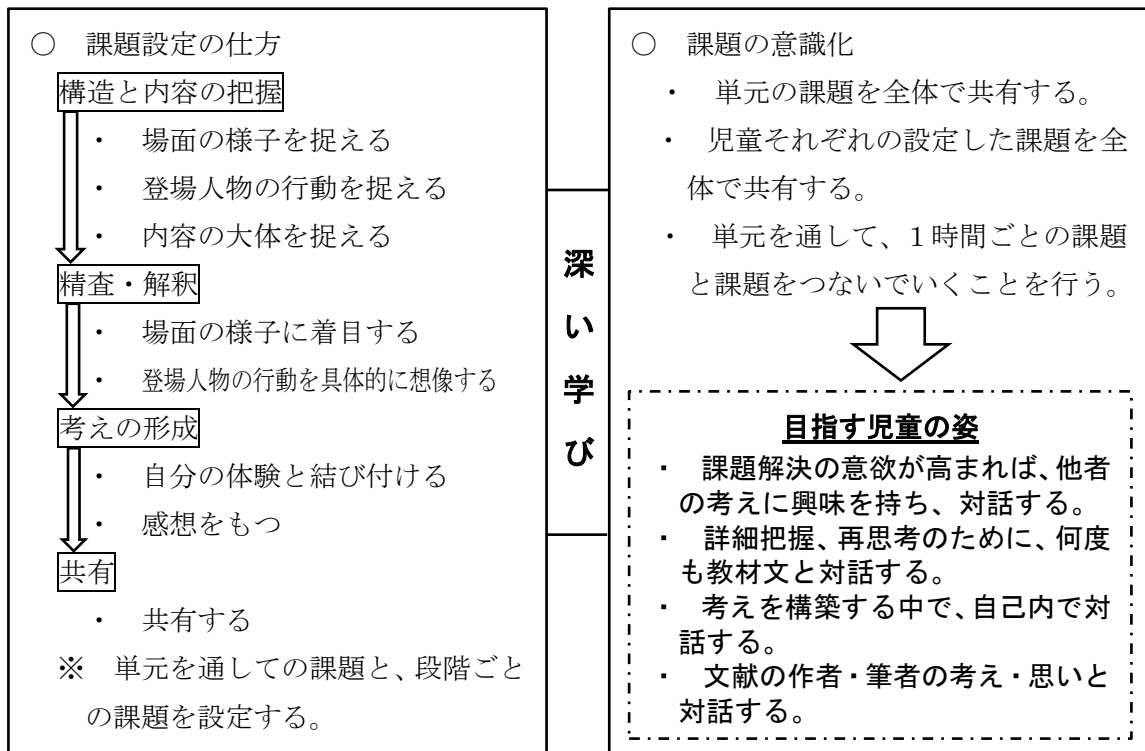


小学校において重点的に育成すること

2 研究内容

(1) 児童が主体的に学ぼうとする授業

① 児童が目的意識をもって読むことができる課題の設定



② 児童が自分の考えを形成することができる発問の工夫

【主発問】 本時のねらいに即したもの。子どもたちの思考に働きかけ、子どもたちの心を揺さぶる発問。

【補助発問】 臨機応変に子どもたちの発言に対応したり、深めたり、共有させたりするための発問。

〇〇さんはどうしてそう考えたと思う？

〇〇さんの考えを詳しく説明できる？

今、〇〇さんが言ったことをもう一度言ってみて。



- 【導入】
- ・子どもの興味・関心を引き出す発問や、問題点に気づかせる発問、学習課題を明確にする発問。
 - ・学習のねらいや課題を明確に理解できるようにする発問。
 - ・設定した学習課題に基づいた学習計画を立案できるようにする発問。
 - ・事前に学習の仕方や学習の対象を選択でき、自分なりに追究できるようにする発問。

- 【展開】
- ・子どもたちの話合いを活発にしたり、子どもたちの思考を深めたりする発問。
 - ・追究していくための方法や学習対象を明確にできるようにする発問
 - ・追究の過程で修正ができるようにする発問。
 - ・常に学習課題に立ち戻って追究できるようにする発問。

- 【まとめ】
- ・授業のまとめや振り返りにつながる発問。
 - ・その日の学習内容を活用させるような発問。
 - ・次時へのつながりを図る発問。
 - ・友だち同士で学習成果を比べられるようにする発問。

(2) 児童自身が主体的に学び合う場面

① 自分の考えを表現する場の設定

深める () 分	3 見通しに沿って考える。 ○ 自分の考えをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペアやグループ、全体、といった様々な形態で伝え合う場を設定することで、友達の学びのよさや新しい考えが発見できるようにする。 ・ 付箋等を使用して自分の考えを整理したり、黒板やタブレットを使って説明したりする場を設定することで、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 	★ 思考力・判断力・表現力に関する評価も合わせて行う。	合はこ 強する
	4 お互いの考えを伝え合う。 <input type="radio"/> ペアで <input type="radio"/> グループで <input type="radio"/> 全体で			
低学年・・・自分の感想や意見を持って、相手に伝えている。 中学年・・・感想や意見を伝え合う中で、共通点や相違点、互いのよさ等に気付いている。 高学年・・・感想や意見を伝え合う中で、共通点や相違点、互いのよさ等に気づき、自分の考えを確かなものにしたたり、見直したりしている。				

個人で



ペアで



全体で



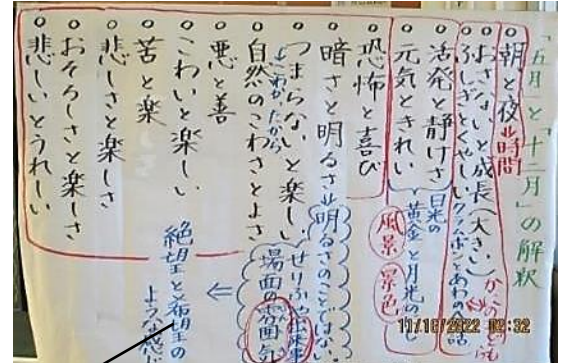
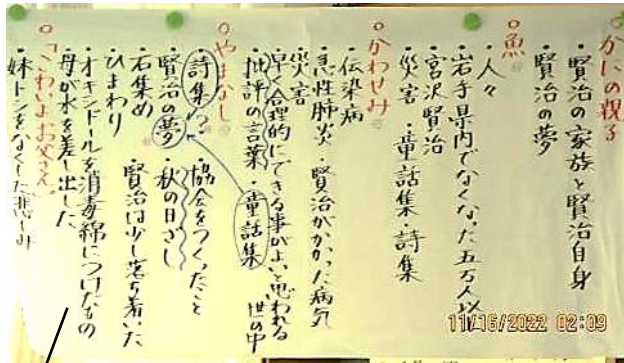
グループで



- ② 児童が目的や必要性を意識しながら、学び合うための工夫
- ・ワークシート、ノートの工夫

- ・授業をまとめた掲示物

【6年「やまなし」の授業】

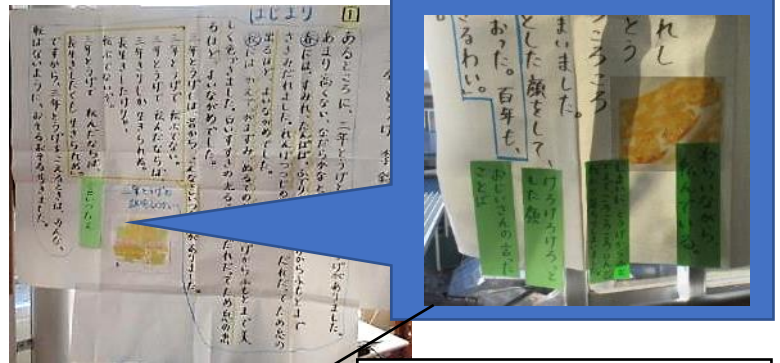
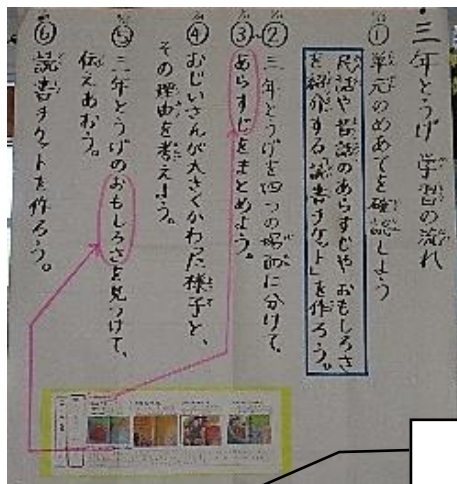


教室の前面や側面を使って授業で学んだことが掲示されすぐに振り返ることができる。

授業での大切な言葉や意見を書き加え、学習が想起できるような手立てを行った。

- ・単元の学習計画に沿って、本時の学習や単元のゴールを見通せるような掲示物

【3年「3年とうげ」の授業】



授業の最後には、「読書チケット」を作成して伝え合う活動を取り入れた。

授業後には、読み取ったことが分かるように短冊にして掲示していった。

【参考文献等】

- 小学校学習指導要領 国語編
- 宮崎県小学校研究会国語部会第38回南那珂地区大会資料
- 小学校国語「読むこと」の授業をつくる 光村図書
- フレームリーディングで文学の授業づくり 青木信夫著
- 国語授業の教科書 白石範孝著 東洋出館版社
- 国語の授業の技術 白石範孝著 東洋出館版社
- 小学校教育 佐賀教育センター 平成30年度
- 教科等の学習指導Ⅱ（国語科）福岡県教育センター 令和2年度

1 単元名 ○○○○○【○○○○：光村図書】

単元名は、言語活動や課題が明確で児童が取り組みやすくなるように設定をする。

2 単元の目標

- 【知識・技能】
- 【思考・判断・表現】
- 【主体的に学習に取り組む態度】

※ 重点目標を◎で表す。

※ 表記については、児童の立場で書く（～することができる。）。

3 単元について

○ 教材観

- ① 本単元は、学習指導要領のどの指導事項に当てはまるのか、また、本単元でどのような言語の能力を育成するのか。
- ② その能力を育てるために、どのような教材を使い、どのような言語活動を構成するのかを概観する。
- ③ 単元の目標の実現にどう結びつくのかを明記する。

○ 児童観

- ① これまでに取り組んだ系統性のある単元で、どのような能力の育成をねらってどのような言語活動を行ったか。
- ② 課題解決の中で、思考力・判断力・表現力は授業においてどのように発揮されているか。現状と課題を客観的データなども活用しながら記述する。
- ③ 課題を受けての現時点での取組や成果の記述も入れる。

○ 指導観

- ① 単元の目標達成に向けて、また、思考力・判断力・表現力を高めるには、どのような手立てを講じるのか。
- ② 本時の課題解決の過程について、児童の実態や課題を中心とした手立てを具体的に記述する。

4 指導及び評価の計画（全○時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価【評価方法】
1	3 本時 （ ／ ）	1 「主な学習活動」には、指導のねらいを達成するために、どのような活動を通して課題解決を図っていくのかを記述する。 ※ 言語活動との関連も必要に応じて記述する。	<ul style="list-style-type: none"> 何を身に付けるために、どのような手立てをとったかが分かるように記述する。（例：○○の力を身に付けさせるため、□□の手立てをとるようにする。） 児童が主体的・対話的に学ぶための指導の手立てを具体的に記述する。 ※ 語尾は指導者の視点で書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どのような状況であれば「おおむね満足できる状況」であるかを示し、単元の目標で取り上げた指導事項と対応するように記述する。 ○ 【 】欄を設け、評価方法を書く。

5 本時の目標

○ 単元の目標や単元計画に基づき、児童の視点で記述する。

6 本時の学習指導過程

段階	学習活動及び学習内容	指導上の留意点及び評価の観点	資料・準備
つかむ・見通す（分）	1 既習事項について確認を行い、本時の学習内容を知る。 めあて <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>	○ 本時の目標を達成するためのめあてを児童向けの言葉で記述する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学びの質や深まりを補強するICT等の活用も視野に入れ、資料等で活躍する場合はここに記述する。 </div>
	2 本時の学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 既習事項から 解決の方法・手段 など <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「学習活動及び学習内容」は、児童の視点から書く。 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「指導上の留意点及び評価の観点」は教師の視点から書く。 </div>	

深める () 分	3 見通しに沿って考える。 ○ 自分の考えをもつ。	○ 個別指導の必要な児童への手立てを書く。 《評価》	
	4 お互いの考えを伝え合う。 ○ ペアで ○ グループで ○ 全体で	◎ 指導事項に対応し、言語活動を具体的な形で記す。語尾は、「～できる。」 「～している。」 【 】の中に評価方法を書く。 ★ 思考力・判断力・表現力に関する評価も合わせて行う。	
	5 学習のまとめを行う。 まとめ	○ 本時で学習したことをまとめる。	
	<div style="border: 1px solid black; width: 500px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div>		
振り返る () 分	6 学習を振り返る。 ○ 自己評価 ○ 相互評価 など	○ 評価活動を行い、本時学習の理解を深めさせる。	
	7 次時の学習について知る。	○ 必要があれば、次時の活動について知らせる。	

7 板書計画

<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p>まとめ</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <p>めあて 単元名</p>
--	--

本時のめあてや学習の手掛かり，児童の学びの軌跡など，児童の学習の助けとなるように内容を精選し，構造化する。

Ⅲ 実践

第6学年2組 国語科学習指導案 授業者 日向市立財光寺南小学校 野田 純恵

1 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう【やまなし、イーハトーヴの夢：光村図書】

2 単元の目標

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 【知識・技能】
- ◎ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【思考・判断・表現】
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元について

○ 教材観

- ① 本単元は、主に学習指導要領の2〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)「オ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。」を受けて構成している。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる能力を育成する。
- ② 本単元の指導にあたっては、宮沢賢治の物語文「やまなし」と宮沢賢治について書かれた資料「イーハトーヴの夢」の2つの教材を使って指導を行う。「やまなし」は、宮沢賢治独特の表現で水中の生き物たちの生と死が描かれた物語文である。資料「イーハトーヴの夢」で、宮沢賢治の人柄や人生を理解しながら、「やまなし」の世界感を味わわせ、感想をもたせる。その感想を交流しながら、考えを深めさせていく。
- ③ このような活動を行うことで、児童は、自分の感想と他者の感想を比べながら、再度自分の感想と向き合い、物語をよりよく理解し、考えを深くまとめることができると考える。

○ 児童観

- ① 1学期には、「視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう」の単元で、物語文「帰り道」の指導を行った。登場人物の関係や心情を捉えるために、2人の人物の視点から描かれた文章を読み、人物像をまとめる活動を行った。
- ② 本学級の児童は、自分から活発に意見を言う児童は少なく、消極的な傾向が強い。しかし、指名して意見を言わせるとしっかりと自分の意見を言える児童が多いことから、自分なりに考えをもちながら授業に取り組んでいることが分かる。全国学力テストでは、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」ともに全国平均を下回っており、理解の遅さや自信のなさも伺える。
- ③ そこで、本学級では、積極的に発言できない児童でも自分の意見を伝えることができるように、タブレット端末を活用した話し合い活動を行っている。長い文章で表すと読むことに時間がかかることから、基本的には10文字以内で自分の考えを表し、伝えきれないことや分からないことに関しては、話し合い活動において口頭で説明したり質問したりしている。このことにより、自分から発言したり質問したりできる児童が少しずつ増えている。また、ただの意見の出し合いではなく、1つのことについて深く追及したり、論点がずれていれば修正したりする様子も見られるようになり、思考力、判断力、表現力を発揮する場につながっているのではないかと考える。

○ 指導観

- ① 本単元の指導にあたっては、まず、「やまなし」の大まかな内容を確認した上で、「イーハトーヴの夢」で宮沢賢治の人物像を読み取らせ、物語の読み取りに深まりをもたせていく。毎時間、学級全体での話し合いの時間をとり、互いの考えを共有しながら、物語の世界へ入り込ませる。その上で、第5時において、表現の工夫についての共通理解を図ることで、宮沢賢治の表現の一つ一つに意図や意味があることを感じ取らせ、物語の主題に迫らせる。

② 本時の指導にあたっては、話し合い活動を中心に行う。まず、本時のめあてを確認した上で、本文を通読させる。その際、なぜ「やまなし」を題名にしたのかを考えながら読み、ポイントとなるようなところには、サイドラインを引いておくよう指示する。次に、ノートに自分の考えをまとめさせる。これは、話し合いの材料となるものであるため、より具体的に書いておいた方がよいことも指示しておく。そして、ノートに書いたことを10文字でまとめ、タブレットに打ち込ませる。これらの準備を行った上で、話し合いの時間をとり、学級としての結論を一つにまとめさせていく。途中で必要な場合は、ペアでの話し合いも交え、児童一人ひとりが考えを深めることができるよう支援する。最後に、自分の考えをノートにまとめることで、次時に設定した、物語の主題をまとめる活動へつなげる。

4 指導及び評価の計画（全8時間）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価【評価方法】
1	1	1 初発の感想を書き、学習の見通しをもつ。	・ 物語の概要を捉えさせるために、児童の感想を分類させ、学習計画を立てる。	○ 自分なりに感想を分類している。 【ノート】
	2	2 「五月」「十二月」に描かれている風景を絵や図に表す。	・ 様子や出来事を捉えるために、黒板に絵や図を描きこませる。	○ ノートに読み取ったことをもとにした絵や図をかいている。【ノート】
2	3	3 「イーハトーヴの夢」を読み宮沢賢治の生き方や考え方について話し合う。	・ 宮沢賢治の人物像を捉えるために、「宮沢賢治はどのような人物か」をテーマに話し合いをさせる。	○ 自分の考えをタブレットに打ち込んでいる。 【タブレット】
	4	4 心を引かれた表現を選び、想像した情景をタブレットに打ち込む。	・ 他者が選んだ表現にも着目するために、タブレットに書きこまれた情景からどの表現のことかを推測させる。	○ 想像した情景をタブレットに打ち込んでいる。 【タブレット】
	5	5 「五月」と「十二月」を比べ、考えたことをまとめる。	・ 二つの場面の違いを理解させるために、工夫された表現について整理し、考えをもたせる。	○ 考えをノートにまとめている。 【ノート】
	6 (本時6/8)	6 なぜ「やまなし」という題名にしたのかを話し合う。	・ 物語の主題を捉えるために、「やまなし」という題名になった理由を考えさせる。	○ 話し合ったことをもとに自分の考えを書いている。 【ノート】
	7	7 「やまなし」に込められた思いについて文章をまとめる。	・ 物語の主題を捉え、簡潔にまとめるために、200字以内という字数制限を設ける。	○ 「やまなし」に込められた思いを書いている。 【ノート】

8	8 書いた文章を読み合い、学習を振り返る。	・ 多様な考えに触れるために、互いの文章を読んだ感想を付箋に書かせる。	○ 付箋に感想を書く。 【付箋】
---	-----------------------	-------------------------------------	------------------

5 本時の目標

- なぜ題名が「やまなし」なのかを考えることで、「やまなし」に込められた作者の思いを読み取ることができる。

6 本時の学習指導過程

段階	学習活動及び学習内容	指導上の留意点及び評価の観点	資料・準備
つかむ・見通す (3)分	1 本時のめあてを確認する。 めあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">宮沢賢治は、なぜ題名を「やまなし」にしたのだろう。</div> 2 学習の見通しをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・ 読む。 ・ ノートに書く。 ・ タブレットに打つ。 ・ 話し合う。 ・ まとめる。 	○ 児童が安心して授業に取り組めるように、本時の活動内容を提示する。	
深める (37)分	3 本文を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読する。 ・ サイドラインを引く。 4 考えを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ノート ・ タブレット 5 話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ペア ・ 全体 	○ 「やまなし」という題名に込められた思いを考えさせるために、全文を音読させる。 ○ 話し合いの際に必要なことを伝え、自分の考えをより具体的に書いておくように指導する。 ○ タブレットに打ち込んだ個人の意見を全体で共有することで、互いの意見に質問したり、賛成・反対意見をだしたりすることで、考えを深めさせる。 ○ 根拠を明らかにしながら説明するように伝え、物語の読みが深まるようにする。	児童用タブレット
振り返る (5)分	6 自分の考えをまとめる。 7 次時の学習内容を知る。	★ 話し合ったことをもとに、自分の考えをまとめることができる。【ノート】 ○ 宮沢賢治が「やまなし」にこめた思いを作文にまとめることを伝える。	

単元名

学習課題（めあて）

宮沢賢治は、なぜ題名を「やまなし」にしたのだろうか。

5月 ↓ かわせみ

こわい

おそろしさ

死

命をうばう

十二月 ↓ やまなし

よろこび

楽しい

生きる

平和

賢治 ↓ 命を大切に

自然の恵み


やさしい

まとめ

「やまなし」は、自然の恵みを表しているから。

6年「やまなし」授業の記録

※・・・行動 ○・・・発言・発問

過程	教師の発問	児童の反応
<p>つかむ ・課題設定</p> 	<p>(これまでの授業の振り返り) (今日のめあての確認) ○ 今日、宮沢賢治が「やまなし」を通して伝えなかったことは何でしょう。 ○ 一文で書きましょう。 ○ 書いたら根拠をも必要ですよ。</p>	<p>○先生の投げかけに対して「はい」という反応</p>
<p>深める ・対話的に学ぶ場面</p>	<p>○ 書けた人は黒板に書いてください。 ○ 黒板に書かれていることに質問や意見はありませんか？ ○ 人間らしい生き方について近くの人と話し合ってください。</p>	<p>※(開始7分) 1人目の児童が黒板に書く ※書かれたこと 「家族は大切」 「助けるということは決して簡単ではない」 「人間らしい生き方をする」「つらいこともあるけど楽しいこともある」「つらいことがあってこそ嬉しいことがある」「みんなで助うことが大切」「苦しいことがあっても人の約に立つことが大事」「何事も何でもとられないで生きることが大切」「自分のこと家族のこと」「自然の楽しさ」「家族は励まし合っている」「人間以外の生物と共存することの大切さ」「自分だけが大切じゃなくみんなも大切」 ○「人間らしい生き方」という意見がありますが、やまなしには人間が出てきていないから違うと思います。 ○教科書の～ページに自然の事が書いてあります ○それは、イーハトーブの夢の中で書かれていることであってやまなしを通していないので、違うと思います。 ※近くの人と話し合う ○さっきの件ですが、友達と話してみても私の意見は違うと感じました。 ○「自然の大切さ」と書いている人に質問です。自然の大切さというのも違うと思います。」 ○自然についての事について、教科書に～ペ</p>



ージに書いてあります

○それはあまり関係のないことだと思います。

(ここで、何回か意見の交換がある)

○「助けるということは決して簡単ではない」と書いた人に質問です。なぜそう書いたのですか？

○教科書 P122 の下の方に、賢治は肺病にかかっているのに頑張っていると書いてあるので、生きる事や人を助けることは簡単ではないと書きました。

○その意見はやまなしとは関係ないと思います。

○僕も、やまなしの中に助けるという言葉は出てこないのだから違うと思います。

○〇〇君たちの意見を聞いて納得しました

○では、出た意見を仲間分けしていきましょう

○この仲間分けしたものの中であなたは何派ですか

○机を真ん中において、今度はそれぞれの立場で意見を交換しましょう

※子どもたちが黒板を見て、出た意見を仲間分けする

・家族9人

・生き方18人

・自然5人

※子どもたちは机を真ん中における

【自然】・やまなしにはかきの親子とか自然のものがでてきているから

・光の網とか自然に出来るものが多く表現されているから

【家族】・カニの親子、4人の兄弟、家族が中心

・家族と励まし合っている

・どの場面にも家族が登場している

【生き方】・賢治さんの人生が書かれている

○「これらの意見に質問や感想はありませんか」

※ここでたくさん意見の交換がありました。

○「家族という意見には反対です。～

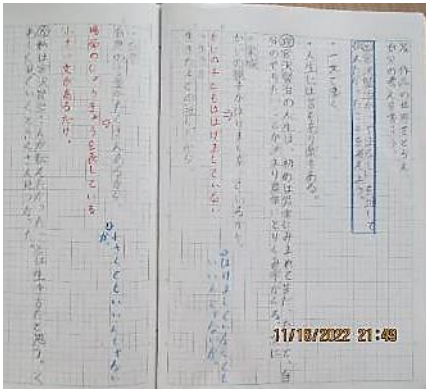
○話題を変えていいですか？自然という意見の人に反対です。～

○僕も自然ではないと思います。自然について中心に書かれていないからです」

○中心にはなっていないけど、自然の描写がたくさんあってそれが物語の中で大事になっているからです



ふりかえる



○沢山の意見ができましたね。どれが正解というのはありません。

今日の感想を書いてください。わかったこと、考えたことを書いてください。

○次回は今日、考えたことを生かして解釈文を書きます。

○みんな、自分の意見が言えてよかったと思います。

○自分の意見をもって発表できたのでよかったです。

財光寺南小学校授業研「6年：やまなし」における成果と課題

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に読みの視点やめあてを意識させたことで、目的をもって授業に臨むことができていた。 ・これまでの学習で蓄積した自分の考えや掲示物を振り返らせることで、自分の考えを形成することができた。 ・本時までの対比した読みの活動や伝え合う活動での手立てができていたので、対話的に学び、自分の考えを表現することができた。 ・児童の思考に働きかけるような発問をしたことで、自分の課題に見通しをもつことができた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童中心に対話的な授業が進められたが、より主題に迫るために、途中で教師側の軌道修正やゆらす発問も入れる必要がある。 ・これまで学習してきた「対比」を生かして、「自然の厳しさと豊かさ」「人生の苦しみと喜び」のような書き方ができるとより深まった解釈になった。

1 単元名 民話や昔話のあらすじやおもしろさを紹介する「読書チケット」を作ろう【三年とうげ:光村図書】

2 単元の目標

- ◎ 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
【思考力・判断力・表現力】
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などについて違いがあることに気づくことができる。
【思考力・判断力・表現力】
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
【知識・技能】
- 物語の組み立て、登場人物の様子や行動、言葉の使い方や文の調子などに着目して、民話や昔話の面白さを見つけることができる。
【学びに向かう力、人間性】

3 単元について

○ 教材観

本単元は、学習指導要領「思考力、判断力、表現力等」のC-（1）エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」及びカ「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などについて違いがあることに気づくこと」に基づいて設定した。

本教材は、「三年とうげで転ぶと三年しか生きられない」という言い伝えを信じ、病気になってしまったおじさんが水車小屋のトルトリの知恵によって元気を取り戻すという、朝鮮半島に伝わる民話である。①始まり②出来事が起こる③出来事の解決④結びという話の組み立てが分かりやすく、登場人物の変化が読み取りやすい。四つの場面構成を意識しながら読み進むという視点が新しく加わることで、子どもたちは物語を組立てという視点で読み進めることができるであろう。また、言い伝えや歌がリズムミカルで、登場人物や知恵を働かせて問題を解決するという民話の面白さや魅力を感じることができる。

また、本単元で取り扱う言語活動を、「民話や昔話のあらすじやおもしろさを紹介する『読書チケット』を作成すること」とした。様々な国の民話の中から、自分の気に入った民話を選び、あらすじを書くことで話の組み立てが意識でき、おもしろさを紹介させることで、登場人物の様子や行動、言葉の使い方や文の調子などの民話の面白さを意識して読むことにつながると考える。また、「読書チケット」を基に感想を交流することで、感じ方や考え方の違いに気づき、より深い読み取りにつながっていくと思われる。

○ 児童観

本学級の児童（28名）は、これまでに「まいごのかぎ」で人物の気持ちの変化に気を付けて読み、出来事や人物について面白かったところについて感想を発表する活動や、「ちいちゃんのかげおくり」で、場面の移り変わりに注意して物語を読み進め、物語の出来事を自分なりに捉え、感想を持つ活動を行ってきた。

9月に実施した国語科（物語文）に関する児童の意識調査を次に示す。

項目	当てはまる/やや当てはまる	項目	当てはまる/やや当てはまる
1 物語文の学習が好き	65%	2 物語文の学習が分かる	73%
3 物語文の学習は役立つ	83%	4 読書が好き	83%
5 他の人と思いや考えを伝え合う学習が好き	91%	6 他の人と思いや考えを伝え合うと、自分の考えや学びが深まる	83%

真面目に学習に取り組む児童が多く、国語科の学習においても、ほとんどの児童がめあてからまとめまでしっかりノートをとったり、ペアや班での話し合いでは互いの意見を積極的に交流したりする。物語の学習に関しては「好き・分かる」と答える児童が約7割で、学級の約三分の一の児童が苦手意識をもつことが分かる。苦手な理由として多かったものは、「算数のように答えが決まっていない・はっきりしていないから」「登場人物の気持ちなどを場面ごとにノートやプリントに書いていく作業が多いから」というものだった。また、読み取りに関しては、登場人物の行動や気持ちについて叙述を基に捉えることはできるが、その変化の根拠を考えたり説明したりすることは難しい。また、手がかりとなる場所を探して線を引くことができても理由が曖昧であったり、注目すべき言葉が分からずに線を長く引いてしまったりする児童も見られる。話し合いに関しては「好き・学びが深まる」と答えた児童が多く、他社との考えの交流を好む児童が多いことが分かる。しかし、互いの意見を言い合って満足し、考えの広がりや深まりにつながらない姿も見られる。

現在、国語の学習では、児童にめあてや目的を確実にとらえさせ、活動に目的意識をもたせることを意識している。特に、読み取りに関しては、発表の際に児童に話型を示し理由や根拠を意識させながら相手に説明させることを学習に位置づけている。また、話し合いの学習では、意見をまとめることを目的とした話し合いを設定し、自他の意見の共通点や相違点に着目しながらよりよい意見を話し合う活動を行わせている。

○ 指導観

本単元の指導に当たっては、単元の学習の前に、家庭学習において国語辞典を用いての語句の確認をさせる。また、学級文庫に世界の民話や昔話を扱った図書を用意し、普段の学校生活の中で読ませておく。

第1次の単元の導入では、まず、教師が「読書チケット」を使って参考図書の紹介をする。物語のあらすじやおもしろさに着目して学習を進め、学習の成果としての言語活動「あらすじやおもしろさを紹介する『読書チケット』を作ろう」で世界の民話や昔話を紹介し合うという課題を伝えることで、児童の読みの構えを作る。教師の「読書チケット」を見て、自分も気に入った民話や昔話を紹介してみたいと意欲を持つ児童もいるだろう。紹介する民話や物語をあらかじめ考えさせておくことで、学習の動機付けを図る。次に、教師の範読後に初発の感想や問いを書かせる。児童が教材文のどこに強い関心を持っているのか、どのような読み取りをしているのかを把握する手立てにしたい。また、内容のおもしろさに触れているものがあれば、第4次の学習で紹介し、学習の動機付けにしたい。

第2次（構造と内容の把握）では、時、場所、登場人物を確認しながら物語を四つの場面に分け、物語の組み立てとともにあらすじを押さえる。物語にも説明文のように組立てがあり、その多くが四つの場面構成①始まり②出来事（事件）が起きる③出来事（事件）が変化する④結びで成り立っていることをこの教材を通じて学習させたい。その際、児童が目的意識をもって読むことができるように、場面が変わる理由（時、場所、登場人物）を簡単なイラストと共にノートに構造的に示し、四コマまんがのように表すという課題を設定する。

第3次（精査・解釈）では、おじいさんの変容を考え、全体で話し合わせる。特に、四つの場面構成の中でも、三つ目の場面「出来事（事件）が変化する場面」の前後の変化について考えることを重視する。おじいさんの様子や気持ち等がどのように変化したかを叙述から読み取り、読み取ったことを全体で話し合うことは、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについてより深く想像することにつながるだろう。

第4次（考えの形成）（共有）では、「三年とうげ」のおもしろさについて、班と全体で交流する場面を設定する。作品に対する理解を深めたり、自分が気付いていなかった作品の魅力に気づいたりできる場としたい。ここで気づいた内容は、自分が選んだ民話や昔話を読む際の観点ともなる。全体の交流の際には面白さを分類しながら板書することで、自分が選んだ民話や昔話を読む際の観点の広がりを図りたい。また、友達と話したことによって、より豊かに物語を読めるようになったと児童自身が自覚することで、対話の価値が実感され、次の機会においても、積極的に対話しようとする姿につながるだろう。児童の自覚を促す手立て

として、対話後に感じたことや気付いたことをノートに振り返らせる。対話を通した自己の考えの広がりや深まりを実感し、積極的に対話しようとする姿につなげたい。

そして、自分の選んだ民話や昔話について考えを形成する。民話や昔話を読んで理解したあらすじと、感じたおもしろさを文章で表した「読書チケット」を作る活動である。第2次、第3次で学習したことを生かしてまとめられるように、物語の展開をもとにあらすじを書いたり、おもしろさを書いたりできるような形式のものを用意する。また、友達の作品を見て、紹介されている物語を読み合うことにより、読者への意欲の高まりと読書の幅の広がりが期待できる。

本時では、物語のおもしろさを交流し分類することを通して、民話や昔話を読む際により多くの観点に着目できるようにする。

4 指導及び評価の計画（全6時間 本時5／6）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価【評価方法】
0	0	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習において、国語辞典で語句の意味調べをする。 学級文庫の民話や昔話の本を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を分担して調べさせたものを掲示し、他の児童と内容を共有できるようにする。 多くの民話や昔話に触れさせることができるよう、単元の学習に入る前から図書を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちや性格を表す語句を理解している。【知識・技能】<短冊>
1	1	1 学習の見通しを立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 教師の「読書チケット」を用いての参考図書の紹介を見て、単元の課題を知る。 【学習課題】	<ul style="list-style-type: none"> 教師の「読書チケット」を用いての参考図書の紹介と読書チケットの内容の構成の説明で、物語の構成やおもしろさを捉える学習への見通しをもたせる。 	
		2 自分が紹介する民話や昔話を選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 三年とうげの範読を聞き、初発の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が紹介する民話や昔話をあらかじめ考えさせることで、学習の動機付けを図る。 内容のおもしろさに触れているものがあれば、第4次の学習で紹介し、学習の動機付けにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを持ち、進んで学習に取り組もうとしている。【学びに向かう力、人間性】<行動観察・発言>
2	2	2 教材文全体の構成をとらえる。 <ul style="list-style-type: none"> 物語の基本的な四つの場面構成を知る。 三年とうげを四つの場面に分け、あらすじをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が目的意識をもって読ませるために、場面が変わる理由を簡単なイラストと共にノートに構造的に示し、四コマまんがのように表すという課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語の組み立てについて知り、四つの場面に分け、あらすじをまとめ、話のあらましを読み取っている。【学びに向かう力、人間性】<ノート>

3	1	<p>3 三の場面前後について、おじいさんの変容と、その理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おじいさんの変容とその理由について自分の考えをまとめる。 ・ 全体で対話する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人での活動の時間を十分に確保することで、自分の考えをきちんと持って対話に臨ませる。 ○ 考えをまとめることが難しい児童に机間指導をする。おじいさんの変容とその理由を口頭でやりとりし、ノートに書く手がかりにさせる。 	<p>◎ 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。【思考力・判断力・表現力】<発言・ノート></p>
4	2 本時 (5/6)	<p>4 「三年とうげ」のおもしろさについて、友達と交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをまとめ、短冊に書く。 ・ 全体で交流し、おもしろさを分類する。 ・ 対話を通して感じたことや気付いたことをまとめる。 <p>5 自分で選んだ民話や昔話について紹介する「読書チケット」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あらすじを書く。 ・ おもしろさを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対話後に感じたことや気付いたことをまとめさせることで、対話の価値を実感し、積極的に対話しようとする姿につなげる。 ○ おもしろさを観点ごとに分類させながら板書することで、自分が選んだ民話や昔話を読ませる際の観点の広がりを図る。 ○ あらすじやおもしろさを書くものを用意し、第2次、第3次の学習を生かしてまとめさせる。 ○ 完成した「読書チケット」を掲示し読み合わせることで、読書への意欲の高まりと読書の幅の広がりにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の組み立て、人物の様子や行動、言葉の使い方や文の調子などに着目して、民話や昔話のおもしろさを見つけている。【主体的に学習に取り組む態度】<発言・ワークシート> ○ 物語のおもしろさについて考えたことを共有し、一人一人の感じ方などについて違いがあることに気付いている。【思考力・判断力・表現力】<ノート> ○ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。【知識・技能】<作品（読書チケット）>

5 本時の目標

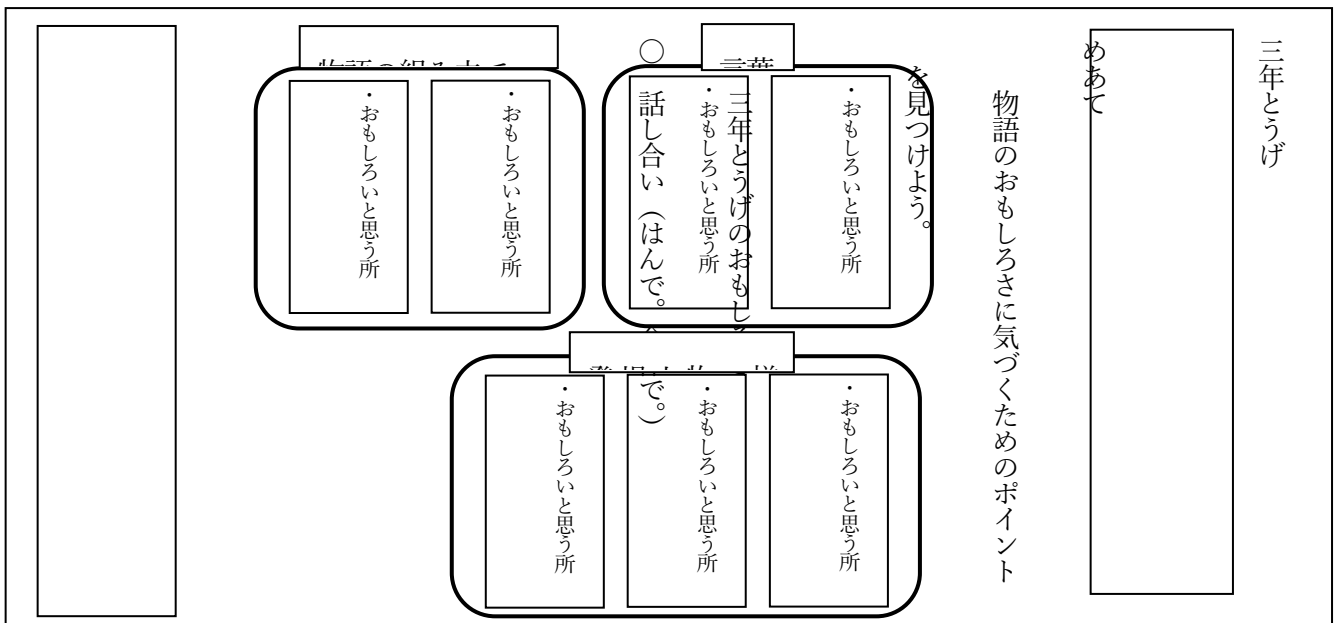
- 「三年とうげ」の面白さを交流し分類することを通して、民話や昔話を読む際により多くの観点に着目することができるようになる。

6 学習指導過程

段階	学習活動及び	指導上の留意点及び評価の観点	資料・準備
つかむ・見通す (5分)	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">物語のおもしろさに気づくためのポイントを見つけよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習の位置づけを確認する。 <p>2 本時の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの考えを交流することで、考えを広げたり深めたりするという解決の流れを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を使うことで、「三年とうげ」を使って物語のおもしろさに気付くポイントを見付け、読書チケットの作成に生かすという目的を意識させる。 ・考えを伝え合うことで、新しい気づきを得ることや、自分の思考を深められることを伝え、対話への関心を深める。 	<p>単元計画表</p> <p>読書チケットの写真</p> <p>おもしろさに着目した初発の感想</p>
深める (35分)	<p>3 三年とうげのおもしろさを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書のおもしろいと思う部分にサイドラインを引く。 ○ 短冊の表におもしろいと思う所、裏にその理由を書く。 <p>4 お互いの考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4名の班で交流する。 ○ 全体で交流し、観点ごとに分類する。 <p>5 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">物語のおもしろさに気づくためのポイントには、物語の組み立て、人物の様子・言っ</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の言葉でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人思考の時間を十分に確保することで、全員に自分の考えをもたせ、対話に臨ませる。 ○ 考えをまとめることが難しい児童に机間指導をする。おもしろいと感じたところとその梨湯を口頭でやりとりし、短冊に書く手がかりにさせる。 ○ 班で交流させることで、全体場で発言することに抵抗のある児童にも発言の場を保障する。 ○ 観点ごとに分類して板書することで、民話や昔話を読む際に着目するポイントとして意識させる。 ◎ 物語の組み立て、人物の様子や行動、言葉の使い方や文の調子などに着目して、民話や昔話のおもしろさを見つけている。【主体的に学習に取り組む態度】 <発言・短冊> ○ 自分の言葉でまとめることが難しい児童のために、書き出しの例を伝えることで書くための手掛かりにさせる。 	<p>短冊</p> <p>観点を書くためのカード</p>

ふりかえる (5分)	6 学習を振り返る。 ○ 対話を通して感じたことや気付いたことをまとめる。 7 次時の学習について知る。 ○ 読書チケットを作ることを知る。	○ 対話通した事故の考えの広がりや深まりを自覚させ、積極的に対話しようとする姿につなげる。 ◎ 物語のおもしろさについて考えたことを共有し、一人一人の感じ方などについて違いがあることに気付いている。【思考力・判断力・表現力】<ノート>	
---------------	---	--	--

8 板書計画



「三年とうげ」授業の記録

※・・・行動 ○・・・発言・発問

過 程	教師の発問	児童の反応
<p>つかむ</p> <p>・課題設定</p> 	<p>○ これまでの授業の振り返りをします。</p> <p>○ おもしろさをたくさんつけられるようになりましょう。</p> <p>○ 次の時間にチケットを作ります。</p> <p>○ 今日のめあての確認をします。</p>	<p>○ 先生の投げかけに対して「はい」という反応</p> <p>※めあてを一斉に読む。</p>
<p>深める</p> <p>・対話的に学ぶ場面</p> 	<p>※机間巡視し、個別に支援。</p> <p>○ 前に教科書に線を引いたところ、教室の掲示物を見て、自分の言葉で、前時に書いた短冊、どれでもいいよ。</p> <p>○ 表に書けた人は、裏に理由を書きます。</p> <p>○ 班で伝え合います。 班で伝え合ったら、自分も同じとか、自分は気付かなかったとか、感想を伝えてください</p> <p>○ 新しい面白さに気付いた？</p> <p>○ 全体で交流していきます。 (1列指名)</p> 	<p>※集中して、各自取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに書き始める。 ・教室の掲示物を見る。 ・教科書をめくる。 など <p>※数回質問する児童1名</p>  <p>※4名の班で交流</p> <p>※1人ずつ立って発表→拍手</p> <p>※出された意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文「うん、なるほどなるほど」 理由「2回繰り返しているから」 ・ 文「えいやら、えいやら～」 理由「おじいさんなのに、元気だから」 ・ 文「～おいおい泣きました」 理由「“すつとんで”のところがおもしろいから」 ・ 文「えいやら、えいやら～」 理由「言葉がおもしろいから」 ・ 「逆だった」



- 「似ています」がいますね。
- これを仲間分けしていきま
す。
- 似ているのをあわせてい
うか。
- 「えいやら～」は、同じだけ
ど、理由が違うんだね。～さ
んは、おじいさんの様子が面
白いんだね。
- ※【様子】に分類
- 他におじいさんの様子を
書いた人は？
- 「逆だった」これは？

- これは？
- これは？
- 他に「歌」を書いた人
- おじいさんの様子を書い
た人？

- どの分類か分からないけ
ど、伝えてくれる人

- 先生が用意していた項目
も紹介するね。
- ※ 組み立て・変化・出来事の
項目を出す。
- 自分が気付いていないと
ころにも気づいた？
- みんなは全部の項目に気
付いて、それ以外にも挿絵や
歌のおもしろさにも気付い
たよね。
- 今日のまとめをします。自
分のまとめでいいです。

理由「言い伝えの反対だったから」

- ・ 文「ぬるでのかげから～」

理由「普通の世界では、聞こえてこな
いから」



- “言い伝えが変わったから” だから場
面

○ 歌

○ 様子

※ 3人挙手→1人ずつ発表

※ 3人挙手→1人ずつ発表

※ 9人挙手→1人ずつ発表

- ・ 文「生きられぬ」

→ 「言葉の使い方」に分類

- ・ 文「犬まで踊っている」

→ 「理由」と「様子」で悩むが、
理由をみて、「様子」に分類。

- ～さんのは、組み立て（変化）じゃ
ない？


○ これは、出来事かなあ。

※ 一緒に分類していく。

※出された意見

- ・ 自分の考えが広がった。わくわくし
た。

- ・ 気付いていなかったところに気付い
た。

		<ul style="list-style-type: none">・ 同じところでもわけが違う。・ 自分から発表できた。・ 仲間分けができることが分かった。・ みんながすごい。
ふりかえる	○ わかったこと・がんばったこと・感想を書きましょう。	※ 各自、ノートに記入。 

財光寺小学校授業研「3年：三年とうげ」における成果と課題

<p>成果</p>	<p>○ 本時まで、きちんとした言語事項の扱いや、丁寧な教材の提示がなされていて、その取り組みの成果が児童の発言の姿となって表れ、主体的で対話的な授業が構築された。</p> <p>○ 単元の学習計画に沿った、本時の学習や単元のゴールを見通せるような掲示物を作成し、導入で本時の学習の位置づけを確認することで、児童の目的意識を高めたり、継続させたりすることができた。</p> <p>○ 物語の中から自分が選んだおもしろさと、その理由を描いた短冊を元に、グループや全体といった様々な形態の場で話し合ったことで、友達の学びのよさや考えを発見することができ、対話的な学びが生まれた。</p>
<p>課題</p>	<p>○ 国語としての資質・能力である「物語の変化の面白さ」「構成の面白さ」「言葉の面白さ」など、児童一人一人の意見を大切にしながらも、必ず指導しなければならない国語的な視点をしっかりおさえるために、発問や切り返しの工夫が必要である。</p>

IV 研究の成果と課題

1 児童が主体的に学ぼうとする授業

＜児童が目的意識をもって読むことができる課題の設定＞

- 単元のゴールを意識した課題を設定したことで、ゴールイメージをもつことができ、目的意識をもって読むことができた。
- 単元を通して、1時間ごとの課題と課題をつないでいくことを行い、課題の意識化を図ることができた。
- 単元の学習を見通せるような掲示物があったことで、ゴールの課題を児童がもちやすくなった。また、1時間ごとの学習で蓄積した自分や友達の考え等の掲示物があったことで、毎時間の課題を理解しやすくなった。

＜児童が自分の考えを形成することができる発問の工夫＞

- 児童が取り組みやすくするために、「おもしろいところ」、「一文で」、「そう思った理由」など、分かりやすく、簡潔な指示や発問が的確で、児童に伝わっていた。
- 対話的な学習は進められたが、より単元のめあてに迫るために、教師側の軌道修正や、揺らす発問の工夫が必要である。

2 児童が対話的に学び合う場面

＜自分の考えを表現する場の設定＞

- グループや全体といった様々な形態の場で話し合ったことで、友達の学びのよさや考えを発見することができ、対話的な学びが生まれた。
- 「個人から小グループ」「個人から全体」のように、発達段階に応じた対話的な学びの場が設定できた。
- 全体での対話の研究だけでなく、小グループの場での対話による深めさせ方についても研究していく必要がある。

＜児童が目的や必要性を意識しながら学びあうための工夫＞

- 自分の意見をしっかりもたせるために、教科書に線を引かせたり、ノート等を使ってこれまでの学習での自分の考えを蓄積させたりすることで、自信をもって意見交換をすることができた。
- 単元のゴールを見通し、本時の読みの視点やめあてを意識させたことで、目的や必要性をもって学習に臨むことができた。
- 発表の中で落としてはいけない価値の拾い方、必ず指導しなければならないことのおさえ方、上位の概念につなげる教師の切り込み方について、研究を深めていく必要がある。

おわりに

本年度、日向市教科等研究会国語科部会は16名の先生方を中心に、児童の学力向上を目指し、研究主題を『主体的・対話的で深い学びを通して思考力・判断力・表現力を育む国語科学習～「読むこと」における主体性を意識した物語文の授業づくりを通して～』と設定し、研究に取り組んできました。

3年生「三年とうげ」6年生「やまなし」の両授業において、それぞれの実態に応じて授業内容を考えていただきながら、国語科主任の先生方を中心に熱心な議論・教材研究を進め、研究授業を行ってきました。また、指導後においても協議を繰り返す中で本研究における成果と課題を明らかにすることもできました。

「主体的・対話的で深い学びを通して思考力・判断力・表現力を育む国語科学習」は、多くの教育現場でICT等を活用した授業を展開していく必要がある状況においても、重要な命題であると考えます。今後とも、本研究で明らかにした成果をそれぞれの指導に生かし、課題を解決する具体的な方法についても研究していく所存です。

最後になりましたが、本研究紀要の作成に当たりご協力いただきました先生方及び各方面の方々に心から感謝申し上げます。

令和4年度日向市教科等研究会国語科部会小学校部会
理事 請関 援

研究同人

<令和4年度>

財光寺南小学校	校長	河野 勉	大王谷学園	教諭	高橋 真友美
	教諭	成崎 紀子	日知屋東小学校	教諭	前田 ひとみ
	教諭	野田 純恵	東郷学園	教諭	小谷 智子
富高小学校	教諭	甲斐 浩子	東郷学園若竹分校	教諭	日高 美穂
日知屋小学校	教諭	那須 静香	坪谷小学校	教諭	請関 援
財光寺小学校	教諭	永野 貴実子	寺迫小学校	教諭	石崎 文佳
細島小学校	教諭	矢野 真美子			
塩見小学校	教諭	寺原 由紀			
平岩小中学校	教諭	稲村 靖子			
美々津小学校	教諭	高見 謙信			

<令和3年度>

日知屋東小学校	校長	平田 哲	大王谷学園	教諭	木下 奈緒子
	教諭	前田 ひとみ	財光寺南小学校	教諭	野田 純恵
富高小学校	教諭	宮下 優香	東郷学園	教諭	小谷 智子
日知屋小学校	教諭	橋口 由紀	東郷学園若竹分校	教諭	垣内 元子
財光寺小学校	教諭	山田 侑子	坪谷小学校	教諭	斉藤 紘希
細島小学校	教諭	川越 球心	寺迫小学校	教諭	岡本 理恵
塩見小学校	教諭	甲斐 浩子			
平岩小中学校	教諭	長野 真理子			
美々津小学校	教諭	山下 牧子			